

Global Management Program

グローバル マネジメント プログラム



Global Management
Program



早稲田大学 商学部
School of Commerce, Waseda University



Website : <https://www.waseda.jp/fcom/soc/students/gmp>

Tel : 03-5286-1821

E-mail : commerce16@list.waseda.jp

Address : 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス11号館3階 商学学院事務所
3rd Floor, Bldg 11, Waseda Campus, 1-6-1, Nishi-Waseda, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-8550

Global Management Program

グローバル マネジメント プログラム

Annual Report 活動報告書

2023

国際社会に貢献するビジネス・リーダーを目指す

Becoming a business leader who contributes to the global society



早稲田大学 商学部
School of Commerce, Waseda University

ご挨拶

早稲田大学商学部の国際教育プログラム Global Management Program(GMP)は、2023年度で開始2年目となりました。4年生(1期生)と3年生(2期生)合わせて100名超の学生が「これからの世界を創るグローバルリーダー」を目指して学習しました。彼らの学びはGMPの授業やゼミの範囲内にとどまらず、自らの学習機会としてプログラムの企画・運営や広報活動などにも主体的に関わり、グローバルリーダーとして求められる能力を日々高めています。また、学部長のもと16名の教員を中心にプログラムの更なる充実に努め、2024年3月にはGMP 1期生を初めての修了生として社会に送り出すことができました。

今年度の最も大きな成果は、世界トップレベルの海外大学の学生と共に学習する機会を得たことです。9月には、GMP初めての海外合宿で香港を訪問し、アジアNo. 1のビジネススクールといわれる香港科学技術大学(HKUST)の学生と共同学習セッションを行いました。GMPの学生は、日ごろ研鑽を深めてきた成果を十二分に発揮し、メタバース・ビジネスの将来性に関するディスカッションではHKUSTの学生と対等以上に渡り合っていました。さらに、香港の企業を数社訪問した際には、訪問先企業の経営の現状と今後の戦略を分析し、その成果を英語で見事にプレゼンテーションしました。この海外合宿を通じて、GMPの学生の能力の高さと彼らの著しい成長を改めて実感し、今後彼らがグローバルリーダーとして国際社会で活躍する姿をありありと思い浮かべることができました。

そのほか、8月には、アメリカ東海岸のブライアント大学商学部の学生・教員がGMPを訪問し、両校の学生で日本とアメリカの社会・経済システムを比較する共同セッションを行いました。10月には、香港で開催された International Case Competition にGMPの学生4名が早稲田大学を代表して出場しました。

世界各国の学生と共同学習を行うにあたり、一部経費をGMPへのご寄付から支出させていただきました。また、GMPフォーラム、GMPキャリアフォーラム等の学習機会も様々な方々のご協力によって実現することができました。ご寄付、ご協力をいただいた方々に心から感謝を申し上げます。

われわれ早稲田大学商学部は、GMPから社会に巣立った学生たちが、世界各国で、そして日本で、今後のよりよい社会を創っていくことを心より願っております。来年度も、これまで以上にプログラムを発展させ、実り多い学習の機会を提供していく所存です。引き続き、皆様のGMPへのご協力、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

プログラムディレクター
早稲田大学商学部 教授 広田 真一

Program Director
Professor, School of Commerce, Waseda University
Shinichi Hirota



プログラム

世界へ羽ばたく人材を育成する実践的なプログラム

Global Management Program（以下、GMP）は、早稲田大学商学部の国際教育プログラムです。学部4年間を通じて、今後の世界を背負って立つ「国際社会に貢献するビジネスリーダー」を育成することを目指します。

現代の社会においては、地球／世界レベルはもちろん、国内においてもグローバルな知識・経験をもったリーダーが求められています。さらに、ビジネスは、各国の政治、文化、宗教と並んで現代社会を動かす大きな力となっています。GMPは「ビジネスを通じて今後の世界を創る」グローバルリーダーを輩出します。

GMPでは、グローバルビジネスリーダーに必要な資質・能力として次の3つを考えています。
4年間のプログラムを通じて、学生のこれらの3つの能力を世界のトップレベルに引き上げます。

- (1) ビジネスにおける課題発見力、問題解決力
- (2) 世界のビジネス、経済、文化、社会の知識
- (3) 国際社会でのコミュニケーション能力

3つの修了要件

1 GMPゼミと論文執筆

GMPゼミは英語を主な言語として運営されます。GMPの学生は3・4年次の2年間継続して履修し、集大成として英語で卒業論文を執筆します。

2 GMPコア科目

英語によって行われるビジネスに関する専門科目を「GMPコア科目」として指定しています。GMPの学生はコア科目のうち、5科目10単位以上を修得します。

▶コア科目

Accounting: Financial Literacy for All	International Management
Business History	International Strategies and Organization
Business Research Methods	Introductory Econometrics
Data Analytics for Business	Organizational Behavior
Financial Management	Strategy, Policy, and Planning
International Consumer Behavior	

3 英語運用能力

GMPの学生は1年次・2年次の必修英語において、習熟度別の上級プラスクラスまたは上級クラスの単位を修得する必要があります。上級プラス・上級クラスは1学年のうち上位20%以内を目安として選抜しています。その他の習熟度クラスの学生は、卒業時（GMP修了認定時）に指定された英語検定試験（TOEFL iBT、IELTS、TOEIC、英検）のスコアの提出により、英語運用能力を確認しています。

香港合宿

Event

2023年9月27日(水)から10月1日(日)まで、香港科学技術大学(Hong Kong University of Science and Technology, HKUST)を主な訪問先として海外合宿を行いました。合宿では、HKUSTでの双方向講義への参加のほか、香港稲門会のご支援をいただき、現地に駐在する校友のみなさまから講演と交流の機会をいただきました。また現地企業を訪問して事前学習の成果を英語で発表し、ご高評をいただくこともできました。躍動する香港のビジネスを体感し、英語でグローバルなビジネスを語る最良の機会となりました。



■ 日程

- 9月27日 羽田空港から香港国際空港へ。現地オリエンテーション
- 9月28日 Vector Group International limited 赤澤朋代様（商学部校友）ご講演
香港科技大訪問。Tat Koon KOH教授によるメタバースに関する特別講義
- 9月29日 現地企業訪問と研修（NTT Com Asia様、ソシエテジュネラル様、伊藤忠香港様、AIA様）、香港稲門会との交流会
- 9月30日 現地見学
- 10月1日 香港国際空港から帰国



NTT Com Asia

この度の訪問は、グローバル環境で働くマインドセット、そして最新鋭のテクノロジーがインフラを支える様子を肌で感じられる絶好の機会でした。等身大のキャリアのお話が伺え、グローバルへの挑戦心が養われました。

（マレンゼミ4年 三堀康佑）

AIA

訪問を通して、香港の保険市場やAIAの強みについて学ぶと同時に、社会人としての心構えも得ることができました。香港合宿では先輩社会人の多様な経験を聞くことができ、人生の選択肢が広がった良い経験になりました。

（エドマンゼミ4年 鈴木祐奈）

Société Générale

社員の方からプレゼンのコツや資料のレイアウトについて貴重なアドバイスを頂きました。また、最後のネットワークセッションで、多様な部門の方と話す機会があり、金融業界についての理解がさらに深まりました。

（広田ゼミ4年 陳イン）

伊藤忠香港

訪問を通し「自身のアウトプットに責任を持つ」「なぜそこで働くのか言語化する」など、最前線で活躍する方々から刺激的な観点を頂けました。今後もこの学びを活かし、自身の社会人生活、ひいては人生全体の糧としたいと思います。

（広田ゼミ4年 前田向貴）

香港科学技術大学

実際に大学で学び、歩き、食べるという体験は短いながらも実りある留学でした。

香港科学技術大学ではメタバースが既存のショッピングモール産業を破壊するか、というテーマについての講義を受講しました。経営学専攻の学生だけではなく、多様な学生と一緒に授業を受けることで深い学びを得られました。香港やアメリカの学生が持つ視点もまた異なり、彼らが上げる事例にも文化差がありました。日本人にとっては当たり前の視点も、逆に海外では生きてくるといいます。これは、留学生を迎えるだけではなく、現地に赴くからこそ得られると思います。

総じて、短いながらも留学を実際に体験する1日として有意義でした。もちろん文化の差を感じることは何度もありましたが、その差を活かし自らの学びの幅を広げられる機会となりました。

（スズキゼミ4年 友江黎）

ブライアント大学との合同イベント

2023年8月21日(月)、22日(火)にアメリカのブライアント大学(Bryant University)のビジネス学部(College of Business)から学生14名と教員2名の訪問を受け、GMPとの交流会を実施しました。両大学合わせて約30名の学生が参加し、ディスカッション、Field trip、企業訪問を行いました。

ブライアント大学は、1863年に設立された米国東部のロードアイランドにある私立大学です。もともとはビジネスの単科大学から始まった歴史もあり、とりわけビジネス関連で高く評価されている大学です。

今回の交流会では、GMPの学生委員が中心となってプログラムの詳細を企画し、運営に当たりました。ブライアント大学の学生との討議においては、両国のビジネスや文化の違いなどを議論するとともに、東京を案内して、早稲田の学生から日本の文化・社会などを説明しました。イベントの企画・運営は、多くのGMP学生の自信や成長につながったと考えております。



■ 日程

- 8月21日 早稲田キャンパスにおいて、商学部の教員からの講義や両大学学生によるプレゼンテーションを行いました。講義やプレゼンテーションの後には、グループ毎にディスカッションを行い、教育やビジネスにおける日米両国の文化の違いについて意見を交換しました。
- 8月22日 コース毎に分かれ、東京近郊を観光しました。和菓子作り体験コースや江戸文化学習コースなどに分かれ、GMPの学生がブライアント大学の学生を案内しました。午後からは東京海上HDを訪問し、SDGsに対する取り組みや今後の保険ビジネスについてお話しいただきました。

今回の交流会でアメリカの大学生と実際に英語でコミュニケーションをとったことは成長と自信に繋がりました。また、私は運営の代表としてこの交流会に参加しました。企画の発案や事前準備、参加者や関係者とのコミュニケーションなどを通じてリーダーとして必要な素質を磨くことができたと考えています。このような機会が多く提供されるのがGMPの良さだと改めて実感しました。今後も英語力やリーダーシップなど自分自身の成長につなげていきたいと思っています。

（広田ゼミ3年 山口宙）



イベント

第1回フォーラム

2023年4月25日のGMPフォーラムでは、「日本のエンタメ産業」、「AIがわれわれの仕事に与える影響」、「企業内のダイバーシティー」に関するプレゼンテーションとグループディスカッションを行いました。3つのテーマはいずれも話題性が高く、また今回はGMPゼミの3・4年生だけでなく留学生の参加もあり、国際的な言語である英語の重要性や有用性を感じる回となりました。プレゼンテーションでは、各々が調べたことや考えたことを相手に分かりやすく伝えることの難しさを感じる学生もあり、グローバルリーダーになるための素質を養う機会となりました。



第1回フォーラムの様子

第2回フォーラム

2023年5月30日のGMPフォーラムでは、2人1組でネゴシエーションのロールプレイを行いました。それぞれが架空の企業の担当者として、製品を最大の利益で販売する/購入することを目指して交渉を行いました。巧みな交渉術を用いて多くの利益を上げる学生や、その後も交渉相手との関係性が続く想定し、長期的な利益の最大化のためお互いに利益を等分するディールを結ぶ学生など、多様な展開が生まれました。実際のビジネスにおいては今回のようなゼロサムゲームではなく相互の利益を最大化するのがネゴシエーションのポイントになることを、肌で感じる回となりました。



第2回フォーラムの様子

第3回フォーラム

2023年6月27日のGMPフォーラムでは、立教大学名誉教授 鳥飼慎一郎先生をお招きし、「英語にどう対応し対峙するのか」というテーマでご講演いただきました。日本人の英語力に関する言語学の観点からの分析や、テストでは測れない本当に使える英語力など、普段なかなか耳にすることのない興味深い内容を、グループワークも交えながら学ぶことができました。英語力に不安を持つ学生だけでなく、帰国子女や英語に自信がある学生にとっても、これから英語とどう向き合っていくのかに関して、各々に合った方向性を示してくれる、非常に有意義な時間となりました。



第3回フォーラムの様子

オープンキャンパスでのプレゼンテーション

2023年8月5日、6日の両日、早稲田大学オープンキャンパスで5名の学生（大西一樹、加藤渚、樺島由梨花、河原井一平、木津穂香、三堀康佑）がGMPについてプレゼンテーションを行いました。たくさん的高校生やご家族が来場される中、「GMPとは何か？」からはじまり、ゼミやGMPフォーラムの活動、香港でのケーススタディ・コンペティションの経験など、高校生の目線に立って説明を行いました。

HKUST International Case Competition 出場

2023年10月1日～5日、GMPの学生4名（奥羽聖華、嵯埤雯、高橋伸嘉、元田就士）が香港科学技術大学にて開催されたHKUST International Case Competition (HKICC) に出場しました。HKICCは世界各国の大学生チームに同じケース課題が与えられ、各チームが解決方法をプレゼンテーションするというもので、今年のケース課題は「金融業界において世界的に大きなシェアを持つHSBC（香港上海銀行）が、紙媒体や窓口での対応を減らし、いかに自社が有するデジタルチャネルに顧客を誘導するか」でした。5カ月に渡る準備期間も含め、互いを高め合い、大きな学びを得る機会となりました。



出場者4名とアドバイザーのキム先生

第4回フォーラム

2023年10月31日のGMPフォーラムでは、三菱商事の篠崎花菜様による講演とワークが行われました。講演では、篠崎様のご経験も交えながらお話しいただき、世の中の問題に自分事として取り組む商社パーソンの熱意を感じ取ることができました。ワークでは、これまでの人生で影響を受けた人に対する感謝の手紙を書いたほか、10年後の自分をイメージしたコラージュを作成しました。ワークは全て英語で行われたため苦戦する学生もいましたが、次第に自分のことを活き活きと話すようになりました。3年生からは「就職活動で見失いがちな本来の自分を見つめ直す機会になった」、4年生からは「社会人になるにあたって自分の進むべき方向を定めることができた」といった声が聞かれました。



第4回フォーラムの様子

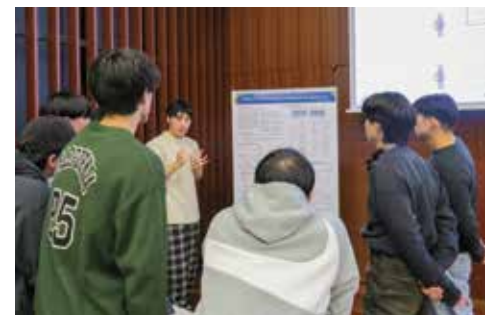
第5回・第6回フォーラム

2023年11月28日のGMPフォーラムでは、社会的課題に目を向けたセッションを展開しました。「日本の女性活躍とウェルビーイング」というテーマを掲げて、学生が複数のグループを組んで政策提言を行いました。日頃グローバルなビジネスの様々な分野を学んでいる学生にとって政策に直結する課題を追求することは新しい挑戦になりました。フォーラムではいくつものユニークな政策が提起され、お招きした政務補佐官の方にも評価をいただきました。

2023年12月19日のGMPフォーラムは学生研究成果発表会を開催しました。各GMPゼミから選抜された8人によるプレゼンテーションが行われ、それぞれのゼミの学びとグローバルビジネスの課題を結び付けた熱い議論がかわされました。また各ゼミを代表する16本のポスターセッションも行われ、ご来賓や教員、学生から鋭い質問が飛びました。プレゼンテーション、ポスターともに水準の高いものになりましたが、教員からは厳しいフィードバックも寄せられ、学生はさらなる高みをめざす決意を固めたところです。学生研究成果発表会のあとは、これまでGMPの運営を主体的に担ってきたStudent Committeeの4年生委員に向けて、来年度の運営を担う3年生委員から感謝の言葉が贈られました。勉学でも、ゼミ運営でも、GMPの絆がさらに固められた一日となりました。



第5回フォーラムの様子



第6回フォーラムの様子

研究内容・研究報告

Contemporary Strategic Management / Accounting, Economics and Society / Consumer Behavior Research
The World's Corporations in a Globalized Society / Study of Insurance from a Global Perspective / Empirical Study of Policy Evaluation
International Corporate Strategy / Economic and Business History: Global Perspectives

Report

Contemporary Strategic Management (マレン ジョエル ゼミ)

This zemi is for students interested in understanding challenges and opportunities of conducting business in a world characterized by major challenges such as climate change, rapidly advancing technologies, and pandemic diseases among others. The complexity of the modern world means that managers work under conditions of continuous change in the context in which business is conducted. To address these challenges, managers must be able to identify and apply relevant knowledge from across different business areas and even other academic disciplines. This zemi introduces students to approaches and methods for doing so. Students will learn to identify and address important issues that determine the success of business strategy. We will study contemporary research and learn modern analytical approaches including statistical techniques and the use of computational simulation methods.



Accounting, Economics and Society (スズキ トモ ゼミ)

「Account+ing(説明+行為)による新しい現実の構築」を共通のテーマに掲げ、ビジネス、経済、政治、サステナビリティ等の分野で、各々の学生が興味のあることを追及しています。スズキ教授と共に研究を進める学生は、日本や四半世紀後の中国・インドが直面する「成熟経済社会」での持続的な制度の開発に取り組んでいます。マクロレベルで売上高が伸び悩む環境で過度な株主第一主義を是正し、付加価値の適正分配を推進する付加価値分配計算書(DS)とDS経営を開発しています。統計調査やレポート執筆を通して「四半期開示制度見直し」、「三方良し経営推進」、「分配による好循環」などの政策提言に携わり、岸田内閣の「新しい資本主義」の基礎として利用されました。DS経営推進のために数多くの上場企業の社長や取締役と協働を進めています。総理補佐官や外務副大臣の下で長期インターンを行う学生も、女性活躍や少子化対策に関する政策提言を行っています。スズキゼミを通じて、将来の社会に対する責任を自覚するとともに、政治経済やビジネスの第一線で活躍する方々と協働できることに感謝し、引き続き精進して参ります。



Consumer Behavior Research (フランク ピョーン ゼミ)

In this seminar course, students learn about statistical research methods and their application in marketing. Combined with a substantive knowledge of marketing acquired in related marketing courses, they use this methodological knowledge to understand the results of recent marketing research published in international scientific journals, to analyze and gain strategic insights from marketing data, and to design and conduct marketing research projects individually and in groups. Using English as the medium of instruction, they present and discuss their own creative ideas, analytical insights, and opinions. The marketing topics studied cover a range of issues in areas such as international marketing, environmental marketing, sensory marketing, viral marketing, and digital marketing. These seminar activities enable students to approach and solve current marketing problems through a combination of established knowledge, creativity, and data-based evidence and to discuss their conclusions with an international audience.



The World's Corporations in a Globalized Society (広田 真一 ゼミ)

世界中の企業の経営について学んでいます。企業の目的、行動、戦略、ファイナンス、ガバナンス、パフォーマンス(収益性、成長性、ESG)等を国ごとに比較し、各国の企業の共通点と相違点とを考察しています。そして、そうした国ごとの企業の特徴が、その国の経済、法律、文化、宗教などから生じているかどうかを検討しています。今年度の春学期には、企業の財務戦略に関する知識を深めるために証券のリスクや企業の資本構成決定などをテーマに、英語で発表を実施してきました。その後秋学期には、春学期で得た知識を元にグループ・個人でオリジナルな研究を進めました。その内容を論文として執筆し、商学部の学生懸賞論文に応募しました。これらのゼミでの学習を通じて、情報収集力、自ら考える力、データを分析する力、本質を見抜く力、そして(日本語と英語の両方で)人に伝える力を高めています。ゼミ生は、「10年後のグローバルリーダー」を目指しています。



Study of Insurance from a Global Perspective (中出 哲 ゼミ)

私たち中出ゼミは保険という切り口から社会の諸制度、市場、経営戦略などをグローバルな視点から分析し、それらを踏まえて新保険商品の検討も行っています。ゼミの運営では、学生が主体的にテーマを選んで研究を進め、プレゼンやディスカッションを頻繁に行っています。保険・社会保障等を研究する関東の大学ゼミで構成される「東京学生保険ゼミナール」に参加し、昨年度は途上国の自然災害リスクをテーマに、CO2削減を促進するような国際的な再保険枠組みを提案しました。今年度は投資促進のための中小企業をターゲットにしたM&A表明保証保険に関する研究提案を行いました。また、「リスク」をテーマとして全国の大学が学際的な研究交流を行う「RIS」に本年度より参加し、少子化対策を進めるうえで新たな保険制度を考案してそれを発表しました。さらに、韓国における新商品アイデアコンテストにも応募し、国際的な発信にもトライしています。(4年生・樺島由梨花)



Empirical Study of Policy Evaluation (富 蓉 ゼミ)

The primary objective of this seminar is to assist students in strengthening their decision-making abilities. Using data acquired through observations or experiments, empirical studies attempt to draw a causal conclusion about the research question. This seminar focuses mostly on quantitative analysis, thus students will learn econometrics and how to utilize statistical packages such as Stata to derive legitimate causal findings. After gaining a foundational grasp of empirical research, students will present their own research ideas, which may belong to any field, such as the healthcare system, education system, or financial laws. Upon completion of the seminar, students are expected to be able to examine the impact of policies using an evidence-based methodology; this core ability would be particularly valuable for future careers or graduate study.



International Corporate Strategy (エドマン ジェスパー ゼミ)

During the spring semester zemi students engaged in an online simulation that challenged them to enter and manage multiple foreign markets. Students were tasked with selecting appropriate foreign markets for entry, deciding on how to adapt their products to target different customer segments, adapt their marketing strategies for local cultural differences, and manage production and distribution. For the fall semester the research has focused on studying market re-entry strategies (how do companies come back to failed markets?) and sustainability strategies (how can global companies be competitive while at the same time ensuring their operations combat global warming?). To investigate these questions, students have read academic articles, identified theoretical frameworks, collected data, and presented case study analysis.



Economic and Business History: Global Perspectives (矢後 和彦 ゼミ)

経済やビジネスの歴史を通して、現代の社会、経済、企業の課題とその解決策を考えています。扱う題材の時代・地域は様々で、視野の広い学習をしています。ゼミ活動は基本的に英語で行っています。春学期は矢後教授の訳著『経営史の再構想』と現在の多国籍企業を題材に個人プレゼンとディスカッションを行いました。ディスカッションではアダム・スミス時代の伝統的な経済学、20世紀の大量生産・大量消費社会、変化が激しい現在のビジネスなど様々なトピックについて議論が発展しました。扱うトピックの幅が広いので、多種多様な情報にアンテナを張ることを日頃から意識するようになりました。秋学期からはイノベーション論や組織論など、春学期に比べてより専門的なトピックを学んでいます。私はスポーツメーカーの adidas を題材に、企業史を応用したブランディング戦略について プレゼンをしました。「よりよい世界を創るグローバルビジネスリーダー」を目指して普段のゼミ活動含め、GMP全体の活動に引き続き精進していきます。(3年生・加藤龍昇)



学生からのコメント



JI, Weiwen さん

今年はHKICC(香港ビジネスコンテスト)に参加し、香港科技大学で世界中から集まった優秀な大学生たちと共に過ごす貴重な経験ができました。香港の名所を訪れ、美味しい地元の料理を楽しむとともに、現地の文化を体験することができました。また、本番では、各チームが与えられた企業のケースに対し、22時間以内に解決策を考案し、プレゼンテーションで競い合いました。過酷なプロセスでしたが、予想外の収穫を得られたと確信しています。

準備から本番まで、チームメイトとお互いに助け合い、お互いから学び合うことで、絆をより深めることができました。GMPが提供してくれた機会を通じ、より大きく国際的な舞台に立つことができ、ビジネスを専門とする世界中の学生たちとのディスカッションや文化交流を行うことができました。その過程で自分の課題を発見・克服することで自己成長に繋げることができ、グローバルリーダーに必要な能力を磨くことができました。更なる成長に向けて、今回の経験と得た能力をこれからもGMPの活動に活かしながら、積極的に参加してまいります。



田口 篤志 さん

GMPでは、ゼミを超えた活動を通じ、高い志を持ち様々な才能に溢れた仲間たちに出会えました。私にとっては、GMP自体が小さなグローバル社会で、学問面で自分の専攻以外の知見に触れられただけでなく、多様な価値観を学ばせて頂きました。メンバーとの協働は楽しく、各自が自分の役割の中でリーダーシップを取って活躍している姿を見て、とても刺激を受けました。

また、GMPには自分を成長させる場も多くありました。香港合宿や留学生との交流、フォーラムでのプレゼンなどの機会を通じて、英語力だけではなく、人前で堂々と意見を述べる度胸や、様々な考えを受け入れ議論する力が身につきました。

GMPの活動を通じて、何事にも自信を持って行動できるようになりましたし、異なる世界や価値観に触れることを楽しむことができるようになったと思います。その延長として、志を高く持ちグローバルに活躍したい、という気持ちがさらに強くなりました。

多くの貴重な機会を提供してくれたGMP、そして何事にも真摯に向き合って下さった先生方に、深く感謝いたします。



木津 穂香 さん

香港合宿は、日本で得られない貴重な経験を積み、成長する機会となりました。現地企業を訪問した際は、実際に稼働するオフィスを見学し、グローバルキャリアを肌で体感しました。香港で活躍する先輩方にお話を伺う機会にも恵まれ、海外で働くことへの解像度が高まりました。香港科技大学への訪問では、現地学生と英語で「メタバースの今後について」をテーマに議論を交わし、国籍を超え自分の意見を積極的に伝える姿勢に刺激を受けました。しかし合宿の成果はそれだけでなく、海外での共同生活がGMP生同士の交流の深まりや、チームワークの向上にも繋がりました。

私自身、合宿の計画・実行に携わる中で初めての試みに不安を感じましたが、先生方やGMPの仲間の協力で無事成功を取めることができました。また、現地企業・大学、卒業生など多数の関係者にお力添えをいただきながら合宿を構築する過程は、非常に手応えがありました。これらはGMPだからこそ得られる経験であり、今後の人生の糧として活かしたいです。



河原井 一平 さん

2023年4月にGMPの広報担当になってから、GMPの魅力をより多くの人に知ってもらいたいと考え、もう一人の広報担当の三堀さんと2人で様々な取り組みを行ってきました。

広報活動の中で意識していたことは、GMPの存在と魅力を幅広い人々に知ってもらうことです。そのために春先から複数回説明会を開催し、SNSでの情報発信にも力を入れました。特に説明会は商学部生向け以外に、オープンキャンパスに訪れた高校生や親御様、附属校の学生向けにも開催しました。また毎月開催されるGMPフォーラムの見学案内を1、2年生の英語の授業で配布するなどもしました。これらの取り組みの結果、商学部生の中のGMPの認知度は飛躍的に向上しており、GMPの魅力をより多くの人に知ってもらうという当初の目標をある程度達成できたと考えています。

広報活動を通じて感じたことは、GMPは大きな発展の余地を秘めているということです。GMPが更なる発展を遂げ、GMPに参加するために商学部に入学しましたと言われる存在にGMPがなることを願っています。

GMPへの期待

早稲田大学のGMPで学ぶ皆様へ



清水 喜彦 様

GMPで学んでおられる皆様宛に、以下の3点を努力して欲しいとの話を以前させて頂きました。

1. 自分の興味のある事を早く見付ける為にも強い好奇心を持つ事。
2. 自ら能動的に行動する事。
3. コミュニケーション能力を高める事。

昨年の成果報告会に出席させて頂いた時に、正に皆様がこの3点を努力されていると実感致しました。

では、今年はいかがだったでしょう？ より一層の前進がありましたか？ 海外での初合宿として香港の大学や現地企業を訪問されたと伺っていますが、強い好奇心と目的意識を持って訪問できましたか？

自らと異なる環境、習慣、考え方を受け容れる事はできましたか？ 何か感じる事は有りましたか？ 自分の考えを相手にしっかりと伝える事はできましたか？ その上で相手と建設的なディスカッションができましたか？

グローバルな言語である英語で相手とのしっかりとコミュニケーションを双方向で取り合える事が、今の不安定・不透明・不確実な時代下、一層重要になってきます。是非その為の経験値を高めて下さい。皆様には漠然とした時間を過ごすのでは無く、はっきりとした目的意識を持った大学生活を過ごされる事を期待しています。頑張ってください。

株式会社SMBC日興証券 元代表取締役社長・会長
早稲田大学評議員
早稲田大学ファイナンス稲門会 会長
国連UNCHR協会 理事

難しく早い時代の国際人としての素養



川口 遼 様

GMPの主宰の一人でもある中出先生のゼミのOBとして、GMPフォーラムに数度参加をさせて頂いています。そうした機会に接する学生の皆さんからうかがえるのは、GMPの活動を通じて得られる知識や経験によって国際人としての素養が形成されることを体感的に理解しているということです。

私自身、普段より仕事を通じて感じるのは、今日のビジネスや社会は様々な困難な課題を次々に解決することによって成立しているということです。そして、これを多様な価値観や理念の尊重を礎とした他者との協調という、国際人としての素養なくして達することが難しいことも感じます。就中、経済活動の国際的な連関と依存の度合いがさらに高まるこれからの時代において、地理的な所在に関係なく各々が国際人である自覚を持つことに加え、その素養を培う機会や枠組みの重要性が増すでしょう。

GMPを主宰する教授陣とその活動に励む学生との間の啐啄同時の関係が、国際人の輩出の枠組みとしてのGMPを益々発展させることを期待しています。

ブラックロック・ジャパン株式会社
グローバル・プロバイダー・ストラテジー・チーム
ヴァイスプレジデント

寄付者芳名

個人寄付

福島 裕 様

法人寄付

いなば食品株式会社 代表取締役社長 稲葉 敦央 様

ご支援をいただきありがとうございました。